

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いきいきと日々健やかに楽しい暮らしをという理念に基づいてその人らしく生活していただいている。	<input type="checkbox"/> 暖かい家庭づくりにつとめます 能力が生かされる生活をしていただきます 住み慣れた町で文化的な生活をしていただきます
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し自然体の中で実践に向けて取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 毎日・日々申し送りミーティングなどでスタッフ間同志理念に向けての話し合いをしている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所は、(理事長、理事・など)は、家族会などに参加し、理念の浸透に向けて取り組んでいるが、地域には、まだ不足と感じている。	<input checked="" type="radio"/> 事業所は、家族会など、積極的に参加しているが、これからも地域の人々に理解して頂けるような活動をしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩などしている近所方や学校へ行く子供たちなど積極的に挨拶や言葉かけなどおこなっている	<input type="checkbox"/> 行事など参加の声かけおこない、日常的な付き合いが出来るよう努めている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事中でのボランティア(踊りや、楽器演奏など)が行われる場合、近所の方々に見にこられるように声かけなどしている。	<input type="checkbox"/> 自治会の「いきいき・地域サロン」の催しに参加させていただき、元気老人の方々と交流を持つことが出来た。平成19年4月5日

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「いきいき・地域サロン」に参加することが出来た常にかかれたホームである様に話しをしている。	○	第三者委員・民生委員さんとの連携をもっと深めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価・自己評価の結果、改善見直しを実施している。		評価結果を回覧し、必ず目を通して。又、確認印により、周知徹底している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は、あるが、順調に機能しているとは、言えない。	○	運営推進委員会の方々の都合もあると思われるので、一歩積極的に事を進める努力をしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「地域サロン」に参加したり、定期的な訪問し、良きアドバイスを頂くなどサービスの質の向上に努めているが、充分とは、いえない	○	行政の方々は、一つの事業所の相手をするには、まだ積極的でない所が見られる。が、疑問点などが発生した場合などは、事業所側から、積極的に質問するなど、交流を持つこと等を意識している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、成年被後見人を受任するなど、知識があり、また他スタッフによる質問などあったら、その疑問に答えることが出来る。	○	スタッフも学ぶ機会があれば、学んで生きたい。 (スタッフの声)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会が少ないが事業所内で虐待が見過ごされないよう身体等に変化がないか注意を払い防止につとめている		高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前などの十分な説明を行い、御家族などの不安・疑問点をお聞きし、理解納得していただける様に努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で利用者本人が意見、不満などがスムーズに表れやすいように環境作りに心がけている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回もしくは、必要に応じてその都度状況を報告している。	○	職員の移動については、事後報告となっているため、これからの課題である。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回以上家族会を設け、意見などを聞き運営に反映されている。		苦情相談窓口等の案内を掲示したり、家族がスタッフに声をかけやすい雰囲気作りにつとめている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は、月4回は、来ホームし、職員の意見などを聞く姿勢を持っている。		管理者は、毎日のミーティングや申し送りなどで、意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出、受診、その他緊急な勤務調整が発生した場合など柔軟な対応をしている。		その都度状況に応じた勤務調整に努めている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの入れ替わりが頻回な事があり、家族より苦情がでたことがある	○	運営者は、職員の移動を軽々に行っているのではなく事業拡大に伴う移動が多い。必要に迫られての移動であると思われる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に行ける職員はいるのだが、計画を立ててトレーニングしていくシステムがない。	○	人員に制限があり、全員が研修を受ける機会が少ない。これからの課題である
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、(多忙の為)地域の同業者との交流など任せきりにならざるを得ない。	○	管理者から運営者へ地域の同業者との交流状況を報告している。これらも課題である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内での行事の中に焼肉会やバレーボール大会などあり、スタッフのストレスの軽減を図る環境作りに取り組んでいる。		月1回の全体ミーティングの時等、お茶菓子の配慮や運営者の心温まるメッセージ発言があり、「運営者の安心感のある存在」を示してくれている
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課や半年ごとの目標設定の指導など、向上心をもてるような取り組みをおこなっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでの間には必要最低限の情報・要望を聞くに留まっている	○	利用初期の段階ではお互いの信頼関係作りに努めているが、それ以前では、機会がないように思われる。利用に至るまでには、会う機会は多くない。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との連絡・信頼関係作りは密に行う努力をしている。		初期の段階ではプライバシーの深い部分は、できないと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	おこなっている。他の行政サービスの相談を支援したり、可能なことはおこなっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	さりげなくお誘いして無理強いのないよう本人様のペースで徐々に馴染んで頂くようつとめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その方の生活史を大切にしながらその方に向き合えるように努めている。		喜怒哀楽を共にし本人から学ぶ姿勢をもつように努めている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、常に連絡を取り、情報を交換している。		職員から積極的に対話するように努めている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に誕生会等参加していただき本人と家族からの情報を基により良い関係が築けるよう支援している。		お互いの良いところに触れ、本人と家族の関係作りを意図的に支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブに行ったり、馴染みの人に会ったりする機会を作っている。		ふるさと訪問・ドライブ・墓参りなど
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	世話役的な利用者の協力の基、自然に利用者がリビングに集う形ができている		お茶・散歩・配膳、下膳・食事の声かけなど

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	声かけや挨拶は、職員全体で行い、ホームの窓口を広げている。		お見舞い・様子伺いの電話やホーム外で会った時の声かけ。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で本人の希望、意向をくみとり希望にそえるようにつとめている。		本人本位の支援をおこなっている（ふるさと訪問・墓参り・鍼灸・買い物など）
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族からの情報収集につとめている。		センター方式の活用
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日バイタルチェックを行い体調の変化にも気を配っている。	○	一人ひとりの一日の過ごし方が完全に把握できていない。本人の潜在する能力を出し切ることが課題である。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や医療との連携を密に行い、本人がより良く生活出来る様に介護計画に反映させている。		遠方にいる家族にも月一回以上は、手紙や電話で近況報告及び介護計画内容をお知らせしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	対応できない変化が生じた場合、毎日のミーティングやカンファレンスの中で現状に即した新たな計画に反映している。	○	必要な支援が先になる場合が見受けられる。即介護計画に表す努力が必要である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有し介護計画の見直しに活かされている		ミーティング、申し送りの中で記録の情報を伝え確認している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイ・その他デイサービスなど、受入れの出来る状況では、あるが、まだその体制は、整っていない。	○	ニーズを見出し、その体制を整える事が課題である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年間の行事中で必要に応じて色々な機関と協力している。		母の日・敬老会・クリスマス会などボランティアさんに来てもらっている。消防・民生委員さんとも連絡を取っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	している。		地域のサービス事業者の方々とも連絡を取り、分からない事など発生した場合相談するなどしている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働していない。		協働する機会・環境がない。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にしながら、本人の状態に応じて受診を行っている。		家族・かかりつけ医と連絡を取り適切な医療を受けられるよう支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医・・・が身近にいる環境にない。	○	職員が認知症に対しての勉強をしており、お互いディスカッションしながら、意見交換し、支援している。認知症ケア専門士なる資格を持つ職員がいる
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日の報告と週一回の医療連携により看護師が訪問状態を報告し日常の健康管理に努めている。	○	地域との看護職との協働が少ない為、交流を持ちたいと考えている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に面会をし、状態を把握している。家族とも電話などで連絡を取り合っている。		面会や電話連絡
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員と家族との連携をこまめに行い、また、医師より、家族へ状態の説明や助言をして頂いている		カンファレンス（家族・医師・職員・看護師長）
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	定期的必要な時に職員全体でカンファレンスを実施その中で医師や看護師長に助言を頂いている。		今後の変化に備えて医療連携や在総診の利用を実施（家族の了解のもと）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えにより、混乱しないよう関係者との連携をとっている		(情報交換) 書類などを早期にだしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人ひとりの誇りや、プライバシーに配慮した記録を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	問いかけなどがあつたらその都度対応している。	寄り添える時間をとるようにしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切に、利用者中心に過ごして頂いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容院を利用できるよう支援している。家族の方が散髪にきてくださることもある。化粧品も準備してある。	洋服も気に入ったものを着用出来るようにコミュニケーションをとりながら着ていただいている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の力に合わせて出来る範囲の事をしていただいている。	台拭き・お茶いれ・野菜皮むき・箸配り・配膳・下膳など出来る所をして頂いている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的ではないが季節ごとの行事、誕生日などで梅酒、杏酒など準備してたのしんでいただいている。	日常会話のなかで食べたい物の希望がきかれたときはそれを取り入れるよう努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の意思表示のない方は、トイレ誘導をおこない、トイレで気持ちよく排泄が出来るように心がけている。		排泄後は、ウォシュレット、清拭タオル使用していきっぱりして頂き、清潔につとめている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴する時間帯など、希望にあわせて支援している。		その日に入る日、入らない日と御自分で決められる方もいらっしゃいます。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	している。		安心して気持ちよく眠れるように、布団干し、シーツ交換を行っているまたお昼ねされる時は、室温に気をつけて気持ちよく休んでいただいている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花見や屋外での食事、ドライブ等にお連れして気分転換を図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族と連絡を取り、ご自身でお金を所持し自由に使えるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お一人でできる方は、見守りながら希望に添うよう配慮し介助の必要な方は、状態をみながら声かけしお誘いしている。		散歩・日光浴・夕涼みなどおこなっている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の機会は、多いがお一人おひとりから希望が出ることは、すくない。		希望があれば、いつでもお連れする用意はある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話できるように配慮している。		手紙の希望あれば支援する用意がある。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人の訪問が合った場合職員一同心から迎え入れすぐお茶を入れるなど居心地良よく支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に玄関、居室に鍵をかけることはない。門もいつでも開いている		夜間は、戸締りを確実にやっている
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中散歩される時などプライバシーに配慮しながら利用者の行動の把握に努めている		夜間も巡視を行い様子観察している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・ハイターなど専用の物置に保管しており、必要な分だけ持ち出し私用している。また持ち出したぶんは、専用の物置に収納している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々に合わせた事故防止策をおこなっている。		年2回の防災訓練を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時にそなえ基本的な流れをマニュアル化し、その方法をスタッフルームの壁に張り出し、すぐ対応できるようにしている。	○	初期対応の訓練を定期的に行っては、いないが、業務実践の中で、発生したら反省会を行い、職員の動きの可否を再確認し、周知徹底している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練を行い、利用者が安全に避難できるように場所など確保してある。		常日頃、近所の方への声かけを行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その時々で家族へ状況の報告、リスクについて家族に説明している。		家族会などでも、リスクについて説明をしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	医療連携を密にとり、毎日のバイタルチェックを参考に体調の変化や異変に努めている。又必要があれば速やかに対応している。		毎朝、協力医療機関へ連絡する体制を整えており、周知徹底の為記録もしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方（変更等）あった場合申し送り・ミーティングなどで情報を共有し、薬の文献表をみて職員全員が把握している。		薬の管理には、2重、3重の確認体制を整えている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方には適度な運動の声かけ、また水分補給（その方の好まれる飲み物）をまめに行うように支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけを行い、自力で出来ない方は、スタッフが援助し清潔を保っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が考え、嚥下のわるいかたには、トロミをつけて、水分・栄養が取れるようにしている。		水分量・食事を記録に残し把握につとめている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会を設置しそれぞれのマニュアルを作成し予防の為に情報を共有している。		今年はノロウイルスが流行したが、母体の医療機関から対策の指示を受け、消毒に努めた。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を使い食器やフキンの完全乾燥をおこなっている。		賞味期限のチェックを行い、余分なストックを置かないようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門は開放し、玄関周りも花壇を置き、明るい雰囲気作りを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けを行っている。		利用者が参加された行事などの写真を掲示している。利用者同士の話のたねになっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて利用者同士で話をする場は、あるが、一人になれる場所が居室のみになっている。	○	場所には、限りがあるも、本人の落ち着く場所作りに努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを持ってきて頂く事で心地よく過ごせるように環境作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、温度、湿度の調整を状況に応じてこまめにおこなっている		加湿器を使用したり、エアコンの掃除を定期的に行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーでトイレ廊下に手すりがあり通路となる部分には、歩行の障害になりうる物を置かず一人ひとりがあんぜんに行動できるように配慮している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立につながる環境作りに努め、常に見守り、適切適宜援助している。		居室入り口にネームプレート、トイレ場所が分かるような目印をつけて混乱されないように心がけている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	前庭が広いのでそれをいかしている。		テントを設置し昼食を摂ったり、お茶を飲んだり、プランターの花の植え替えを行ったりしている。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

さくらのお家 よしだ のんびりでは、いつも利用者の方々が穏やかに過ごせるよう気配り配慮しています。特に自慢・アピールするような事はあまりないですが、1番自信を持って言えることが二つだけあります。1つは、⇒職員が生き生きと仕事に誇りを持ち、また、一丸となったチームワークで援助に取り組んでいることです。お一人おひとりの状況を把握することはまず、自分が楽しく仕事をする事と全職員が一致してそう思っていることです。二つは⇒庭が広くて、それを活かした生活を利用者の方々にしていただけている・・・と言うことです。360度のパノラマのごとく山や川に囲まれ、とても景色がよく精神衛生上、落ち着けて環境が良いと言うことです。やさしい太陽の光の下で、運動会や散歩や芋煮会やちまき作りや昼食会など等・・・・。とても楽しいと利用者の方々が異口同音に言ってくれます。